

万国百物語
初編
二

ル 2
3248
2



門 2
號 3248
卷 2

萬國百物語 卷之二

東京

瓜生政和編集

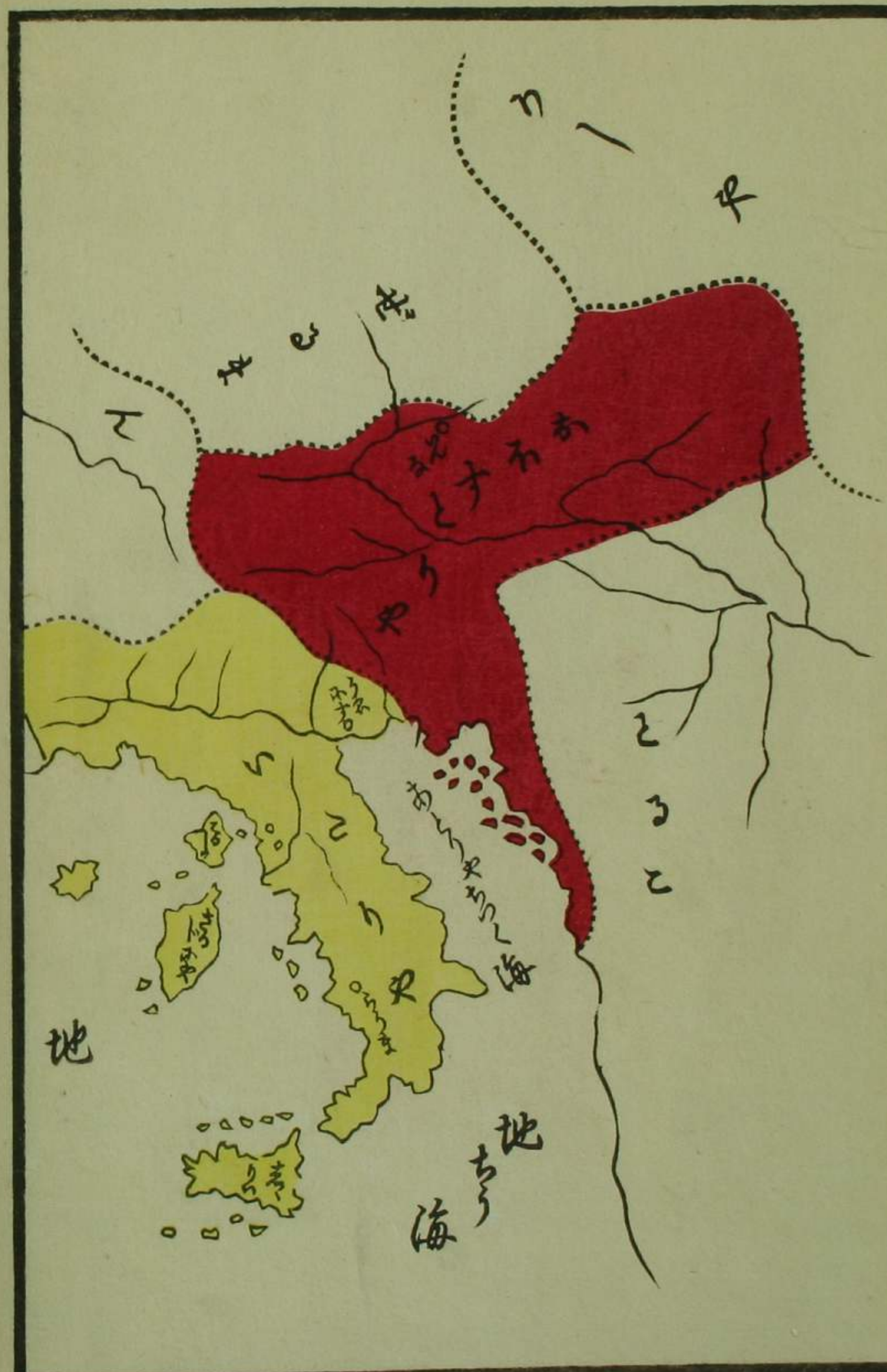
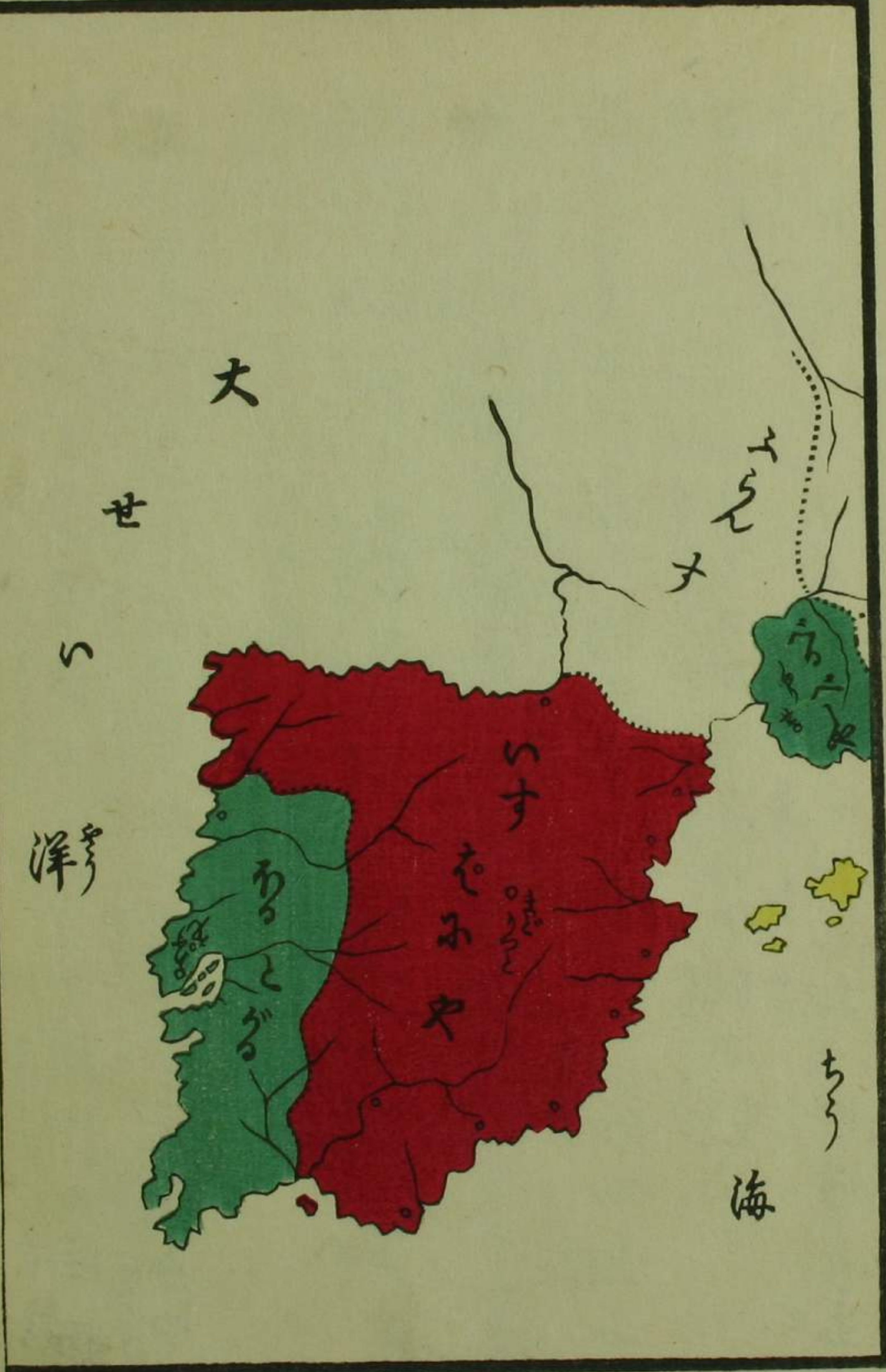


○ 埃地利國のえるゝ

○ 埃地利の歐羅巴の内の五ツの大國の一ツふゝて
 日耳曼連合の王侯の総頭取日耳曼帝の正統あり
 一が仏蘭西國の拿破崙帝と兩度大戦争をわ
 二度みから敗北ふ及ふと以て日耳曼帝の位を下り

居おころる拿破崙帝なぱろんてい魯西亞の戦争せんそう不敗ふばいせし後終のち
 不捕虜とらとありて配流はいりゅうせらるる當国の王とうこくのわう此度の
 日耳曼帝にじにまんていと言いはず埃地利帝あいちりていと稱いてまゝ日耳曼
 連合の国の頭取けんごうのくわいとうとと成りころり六六年むねむねお普魯士
 と戦争せんそう不及あやびは戦いくさひふも負日耳曼頭取まけにじにまんとうとの株かぶと
 普魯士国へ取とらると日耳曼仲間にじにまんちゆうかんと省ちよくころり然しかど
 ども猶なほ是これ不従あやがふ日耳曼の國々十の中くにとくにじゅうのちゆうあて三ツの残のこる
 け国の先祖せんぞと羅雨德帝らうとくていといふるる領分りやうぶん廣く山多やまおほ

さか故ゆえお時候とき大概たいがい三ツお分わき南みなみお寄よりころる土地とちの復まつ
 不成ふじやうると照てり続つく暑あつさ烈たけしくシニコ風うぜあつ或あるはハシロツコ風うじちゆう
 と云いふりの吹まて大熱耐おほねんたえへか々々う海邊うみべさふ至いたまば雨あめル
 ラと号なづけ一ひと大気たいきを洗せん浄じやうする暴風ぼうふう起おこり人間牛馬にんげんうまハ言い
 ふもさらふ蚊蚋ぶんゑいの類るいひふ及およぶまぐで悩なやみ苦むと甚おほど
 又北またきたへ寄よりころる方かたの天氣てんき衰へんト安やすく春秋しゅうしゅうの取分とりぶんけ雲くも
 雲立くもた掩おほひ眉毛まゆげと拂はらつて通とほるあり
 け国海くにうみ少すくく山多やまおほさを以もて総すべての物もの不自由ふじゆうありと



二代目ヨセフと云ふ帝能力を尽して耕作の開拓
 と致させけし他国の産物を待ずして領分中
 の品ふて十分用の足りるこふ成りしり
 け国の名高き大國をともも歐羅巴の國中
 在ると以て僅ふ一部の地亞得亞海に臨みチリエ
 ストと云ふ港あるのこ餘の亞爾伯山嶽の山脈四面ふ
 漫延りて嶮岨多く日本信笈の地形ふ似しり
 多悩と号する大河あり冬に氷封て船の往通ふ出

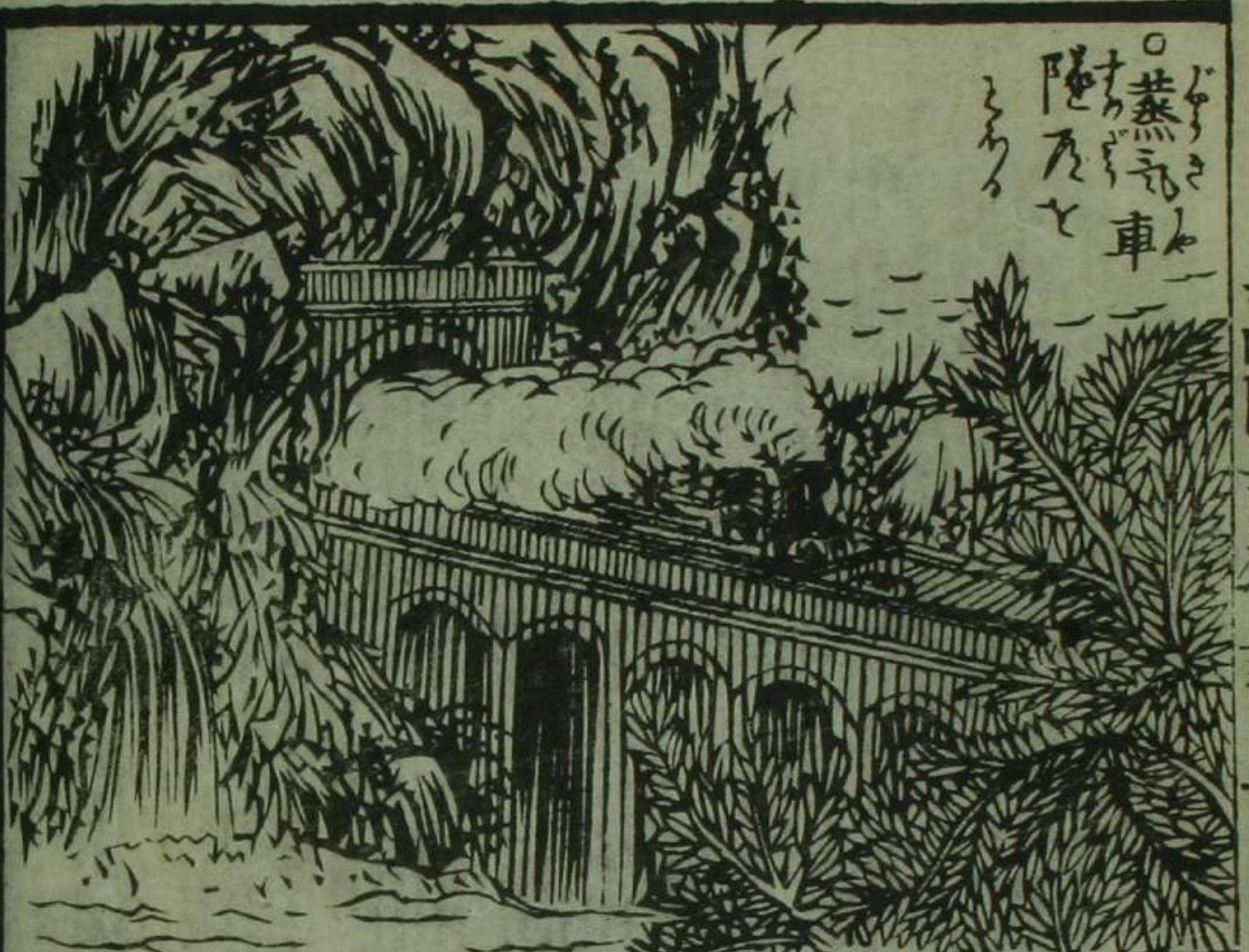
来ず春の暖るふ至り河源る山々の雪解る時
 出水して兩岸ふ溢れ或ひの河に張詰る氷一時
 小破と裂るる有り其声百千の雷のごとく山谷と
 震つて鳴動するあり甚しきふ至りて破れたる氷
 岸に飛散して家居田畑と荒す工夥し既ふ十
 年先のころ首都の町とベス府の間の兩岸大に
 破れ氷のぬふ禍失と蒙り大にぬおと害せしとぞ
 首都と維也納と言ふ町の中のセントスチフェンス

と言ふ寺小歐羅巴島の中ふて第一番と稱する
 塔あり其壘小立て七十七間三尺の高さ小至るその
 結構美麗なるものなりて眼と敬馬くむ
 け府へ土耳其の大兵兩度攻寄せ仏蒙西帝拿破
 崙の軍勢も二度押迫り来り大戦争とありける
 の所るとバ世小名の聞えたる旧跡多し

○波希未、摩拉維の地小アテルスバクと号けり
 あり歐羅巴中の景色よき所小して長さ三里幅一

里半程の間幾々たる巖石一面小突出し其形ち宮殿
 小似るるりのありまじ堂塔と怪しむ可きあり回廊
 の如く長く連り橋の如く高く聳ゆるごと画工も筆と
 投うちてその眺望小の黙然たるべし
 ○士的里亞の地ハ亞爾伯の山脈続き小して險阻多し
 所々の溪間より鑛と出すト夥しく四辺の者ハこを
 鑛と掘るを以て業と為るあり
 け処小首都維也納より一チリエスト港へ往の鑛道

○蒸気車
の
隧
と



掛より峻峻の山岨と冥き千尺の深き谷と且一石と疊たがひこし棧と作り崖の半服はんぷく廻らせ絶壁の峯の林鹿りんかは四方より彼方へ通とおりて隧の道みちを附つるど一実小廣大の仕掛しかけあり汽車道の取分高たかき小昇り一所の海の水の一面

より大畧二百八十七丈餘の上小至るとりふ

當国の亞爾伯山アルプスの意太里国イタリア仏蒙西国フランス日耳曼国ドイツの三国

小蟠ま亘其支脈分わかちて十の山とある絶頂せつていふの四季とも

小雪と戴をかき取分とりけり高き山峯さんぽうの海の水面より廿八

丁あ或あるひの二十五丁ぢやうその低さひのわても十二三丁ぢやう小下くだらず

斯かくの如ごとくあるゆゑ往昔むかしの當国あつちの人々隣国りんこくへ往返へんぱんあり

小この山路やまぢの峻岨せんそあると以て難津なんしん八方はつぱうあらざりしと七十

年ねん秋あきち小仏蒙西帝ふつもんせい拿破崙なほせう破崙大はらんたいの小土木せとくの人夫ひとと起おこりて

新規あらたふた山中やまのちうへの道みちとならず絶壁ぜつぺきの高たからし山巖やまがね
窟くわくの深あふきな谷やまをどおく如何いかふともあらずがさらな所ところへの
石いしと積みつ棧せんと渡りわ其長そのながさは十じゅう里り餘あま不た至いたるは是則これすなはち
支那しなふありと云ふ蜀の棧道せんどう不た類れいせりのくは路
出来できてよう旅人りょじんの往返へん易やすさを不た至いたりしへ全く拿
破やぶ釜かり賜物くわいぶつありとて今も彼の功績こうせきと称せる
當用とうようの何の府下ふふくも大小せうの煩と鑄立ちて所の

名産めいさんとるすも故ゆゑあるるを抑鋏おさ炮ぱうの濫觴らんさうの西洋せいやうの
書物しよぶつの中ちゆうふも衆人しゆじんの説區せき々まふりて確呼かくと定め難
いとさらんども其實じつは支那しな人にんの発明はつめいをせりもあると
け国こくの僧徒そうと拔へつ爾に獨どく兒に度たとらふ者竊せうふ彼の地と
り是と傳習でんじゆし來り我の術と試驗しけん中ちゆう偶ぐ然ぜんふ發
明めいせりと言ひ觸せりあり然とも歐羅巴おろぱ中ちゆうふ
くはけ国こくの拔爾へつに獨どく兒に度た元げん祖そある故今いまも其機
械けいと製するを以て職業しやくぎやうとめるもの當所とうしよふ多し

○加里細国のうち小カイリツサと呼ぶ町ありけ処の山
 塩の名物あり六百年おより日々是と掘出し其
 得るところの塩の高へ世曳一ありと云ふ塩と
 出す礮窯の府の町の下地と百二十丈なりと掘抜
 き其中小ありけ処小住居ふ人へ概ね礮窯の中
 小在りて塩と出すの稼とぬすゆ急益の間へ町の
 家々寂莫と淋しく往來の人も又稀あり塩池へ下
 り往路三條あり途中の足がりの勿論堂塔家居

神仙の像小至るまで皆山塩と彫刻んく拵へるもの
 と置り奇妙風雅言辭小尽るごとく又塩の池ありて
 船と浮べ府下の用便小備ふと言ふ

○西班牙國の在る

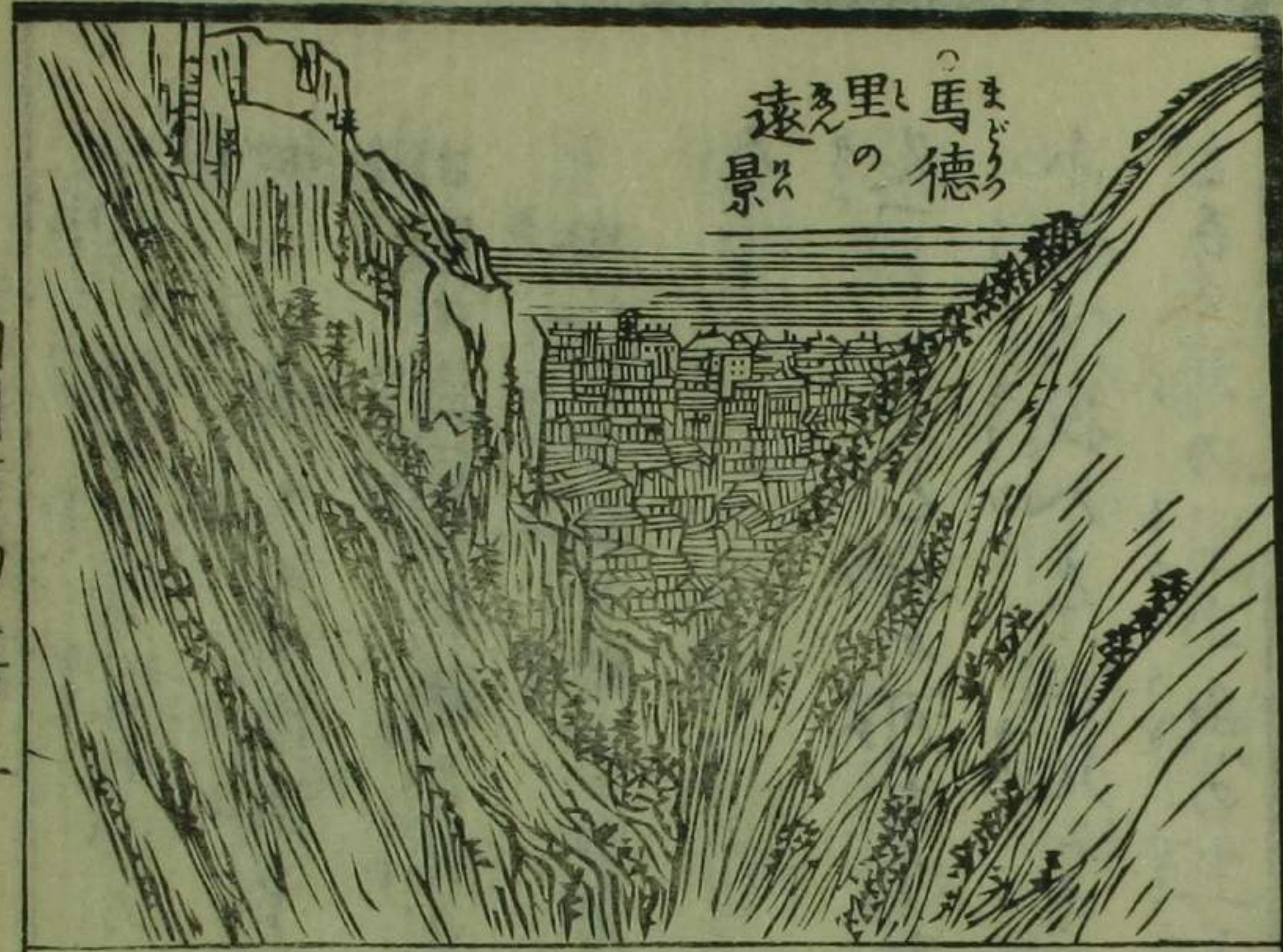
○西班牙の歐羅巴の西南の隅ありて海の中へ突出る
 国あり氣候南へ暑く北へ比里牛斯が嶽の山脈四方
 小蟻蝶り寒氣強しは国と仏榮西との境へ高山嶺嶮
 ありて路幅狭く左右の絶壁へ屏風と建てるが如し

萬國百物語 卷之二

故是と山門と号くコナスキと言ふところの山門の別
 えて危険を以て俚俗の諺小親の子と顧みず子の親
 と顧みずとの語あるに我朝あて親知らず子知らず
 の譬へ有ると同ド

南小寄る地方の季候頗る炎熱あるが故に一ツ歐
 羅巴の中あても獣畜の肉と食とせず多し魚を用
 ゆるあり

国の中程の皆高原の地あり炎熱に耐ゆるけり



時としてガロガと号る北風吹
 来るとあり其寒さ栗列とて
 肌膚を裂くが如くは風の佛
 蒙西国の山中より吹送り来
 るとぞ又アラノと名づくるもの
 あり亜非利加島より吹送る
 南風小く夏不至といは風
 大の小起り連日歇ず熱さ蒸

萬國百物語 卷之二

か如く焼が如し故ハラノ小遇ハ筋骨と拔まてくるが
如く心神大い小抑沮るとりふ

け国の海岸小潮の引くる間小水気日小蒸と立騰り
跡へ白き塩と結ふとあり取て食する小風味極めくよ

又「トント」と云ふ河あり水の色黄と帯て流る人試
小物と投入まて先その水の色小変ト漸く化して石

とある河の中小魚の生とあり西の岸小草の生ると

る一究理学者の考へは河の水ハ洞の気と多く含こ
るが故ハ然る事の在やらんとぞ

は国往昔ハ大とる威勢ふて今の英吉利よりも
勝り葡萄牙国と共小海と渡りて他国へ船と寄る

とと創め「マジラン」と云ふ人の船小ありて世衆とくるり
と巡り閻龍と呼ぶ地理学者ハ亞米理加の国と見

出しく来りて時葡萄牙ふても瓦媽と云ふ者
喜望峯の沖と船小あり廻り東印度へ渡るの路

と附^つて^は西班牙と葡萄牙と中^{ちゆう}に^あれ^は二国^にの^あら^はし^める^の船^{ふね}亞^あ米^あ理^あ加^あと^ある^の東^あ印^あ度^あは^ある^の土^あ地^あと^ある^の交^あ易^あと^ある^の密^あり^の得^あり^の事^あら^はし^める^の然^あら^はし^める^の後^あは^ある^の相^あ互^あひ^あひ^あの^あ勝^あつ^ある^の事^あら^はし^める^の西^あ班^あ牙^あと^ある^の葡^あ萄^あ牙^あの^あ間^あに^あは^あら^はし^める^の終^あつ^あて^あに^あ戦^あひ^あと^ある^の接^あひ^あつ^ある^の事^あら^はし^める^の都^あろ^あ馬^あと^ある^の云^あふ^あ事^あら^はし^める^の所^あに^ああ^あり^あは^ある^の羅^あ馬^あと^ある^の耶^あ蘇^あ宗^あの^あ本^あ山^ああり^あて^あ其^あ和^あ尚^あと^ある^の羅^あ馬^あ法^あ王^あと^ある^の稱^あし^ある^の其^あ頃^あに^あ威^あ勢^あ廣^あ大^あある^の事^あら^はし^める^の以^あて^あに^あ羅^あ馬^あ法^あ王^あと^ある^の二^あ国^あの^あ扱^あひ^あに^あ立^あ入^あり^あと^ある^の事^あら^はし^める

説^いて^い言^いは^いる^の事^いら^はし^める^の亞^あ米^あ理^あ加^あと^ある^の密^あり^の得^あり^の事^あら^はし^める^の閣^あ龍^あの^あ見^あ出^ある^の事^あら^はし^める^の國^あを^あと^ある^の伊^い斯^い把^い泥^い亞^い人^いと^い言^いは^いる^の事^いら^はし^める^の隨^い意^いに^いて^い其^い支^い配^いと^いす^いべ^いく^い東^い印^い度^いの^い瓦^い媽^いの^い路^いと^い附^いる^の事^いら^はし^める^の所^いに^いあ^いる^の葡^い萄^い牙^いの^い者^い長^いと^いす^いべ^いく^い是^いと^い領^い分^いと^いす^いべ^いく^い後^い々^いの^い子^い孫^いと^いす^いべ^いく^い至^いる^の事^いら^はし^める^の會^い盟^いと^いす^いべ^いく^い天^い神^い必^いず^い罰^いす^いべ^いく^いと^いす^いべ^いく^い爰^いに^い於^いて^い西^い班^い牙^いの^い西^いの^い方^いの^い國^い亞^い米^い理^い加^いと^い交^い易^いと^いす^いべ^いく^い葡^い萄^い牙^いの^い東^いの^い方^いの^い國^い印^い度^いと^い交^い易^いす^い然^いと^いす^いべ^いく^い其^い頃^いに^い亞^い米^い理^い加^い未^いだ^い罷^いけ^いざる^の故^い東^い支^い度^いの^い方^いの^い交^い易^いと^いす^いべ^いく^い比^いぶ^い事^いら^はし^める^の利^い益^い十^い分^いの^い一^いある^の事^いら^はし^める

以て西班牙王深く是と監え世界は丸くして球の如し
 東西と分つ地球半面づみの論ありて東より進むも
 終小西不至り西より旋るも果は東へ出るんと言て事
 熟する船將小命ト大船五艘と裝飾是小宗ら
 めけまといひ船西小向ひて出帆る大西洋を越えて
 大平海小出で遂小東印度ある日リペインの地の
 島小着し大の交易の法と定さ再度大利と
 得小けまといひ国都いよ繁昌して歐羅巴刃中の



大一等とありたり然まども近
 世小至り国王不徳あると以て
 英吉利仏榮西和榮とら小
 外国の領地と尽く奪ひ取
 らし国威漸く衰えたり
 耶蘇宗門の古き派と耶
 蘇舊教と云ひまゝ天主教
 とりい新き派と耶蘇新

教んとら然らるふけけ国の人の舊きう教の宗しゆ門もん小こ凝ぎやう固こり居ゐ
 るを以もて五ご十じゆ年ねんあまままぐら新しん教の信しんずるのの輩はいあまま
 召めい捕とて罪ざい科か小こ行ぎやうふの裁さい判はん所しよと建たてをてら夫そ故こ
 小こ新しん教の信しんぶく捕と囚らと成なり牢らう内ない小こ命いのちと落おちす
 のの往むか古こより二に十じゆ八はち万まん八はち千せん餘あま人ひと生なるら焼や殺ころさる者もの
 三さん万まん四し千せん六りく百ひやく人にん餘あま小こ至いたるらとと初はつのの如ごときの残ざん忍にん惡あく
 政せいをとては国の力ちからの衰おとろへも又また當あた然らの理ことわり合あはらずや
 国の首くび都みやこと馬ま德とく里りと号なづく其王おう城じやう今いまより百ひやく四し十じゆ

年ねんあままま小こ焼や失しるら一いつつら因よりて其その頃ころ伊い太た里り国の名なと得え
 一いつハハンンセセツツチチと呼よぶ大工くのの上う手てありけはいは是これと雇やとひ
 今いまのの王おう宮みやと作つくりしとるらう
 けけ国の春はる夏なつの二に季き小こ人ひとと牛うしとと闘たたかひするの拵あそび有あ
 り是とおもふふの先まづ廣ひろ大おほ家ゐと丸まる造つくりし建たてをてら周しゆ圍ゐ
 棧せん敷しきと設たけし物もの人ひととは是これ小こ居ゐとる牛うしと闘たたかふ者
 綺き羅ら美みある衣い裳しやうと着き馬うまとは或あるひは徒た歩ほ
 て棧せん敷しきのの中なかの廣ひろ庭てい小こ出いで強猛まうのの牛うしと引ひ出だして

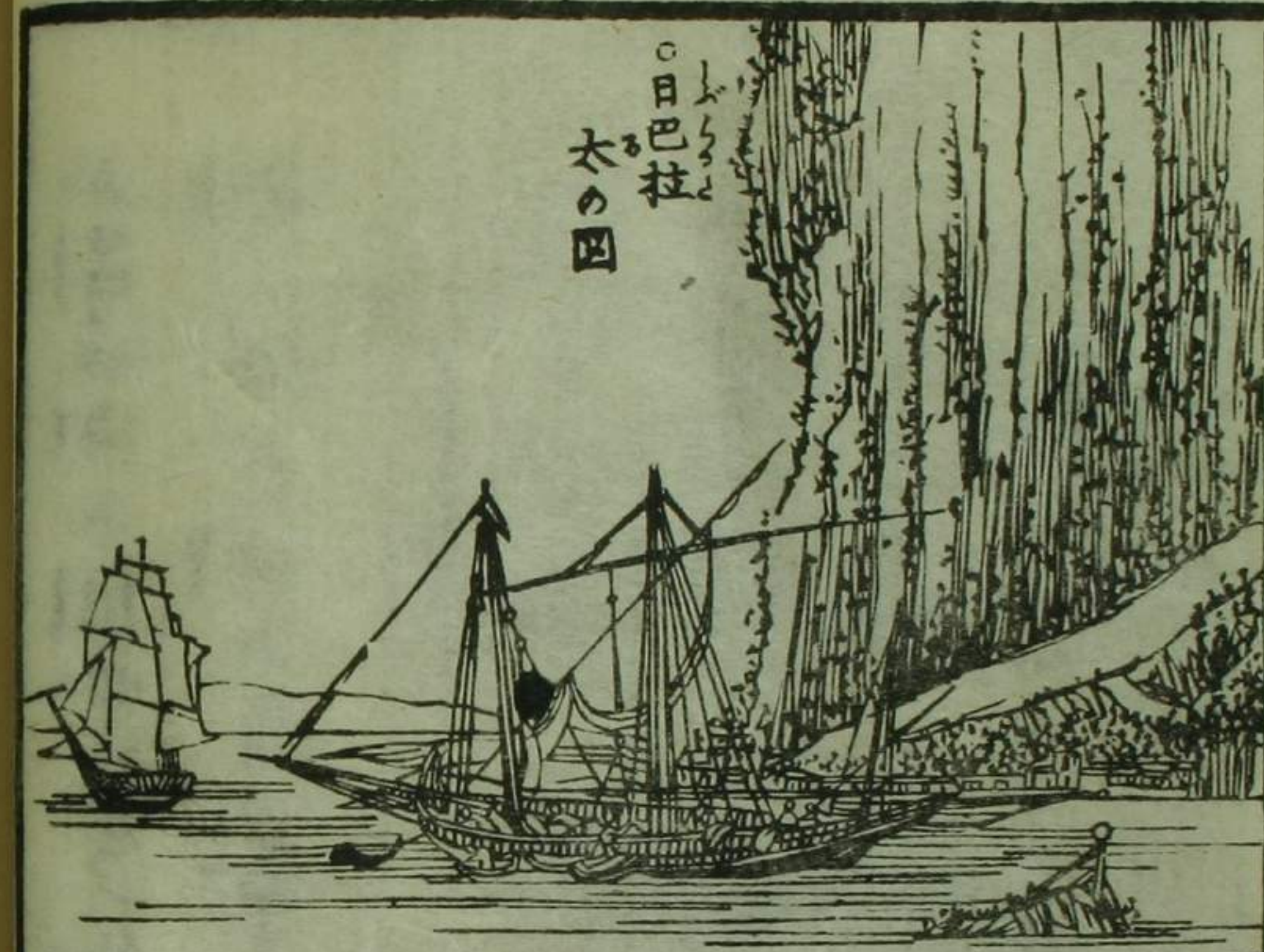
是と闘ふあり牛疝と蒙るときは怒り猛り角と揮
 つて突つて馬と貫き人を貫くと間あまは危あき
 と言べうらす人も牛も互ひ血と濺ぎ人力と奮つ
 て牛と斃せむん物の群集を拍ち足と踏鳴ら
 声と揚て賞賛と我朝の相撲場と異みらず斯の
 如くおして牛を殺すと一日お八九頭より十足お至る
 古代の歐羅巴各国ともお闘牛の拵ありけるよう
 かもども今に只は西班牙のこゝお残まるといふ

當国の内おエスクリアルと呼ぶ郷あり家数些少るま
 とも廣大る寺あり周田十五町余の大伽藍おして
 金銀珠玉と鏤め飾りたる禮拜堂講堂を國王
 累世の墳所とありあり千八百六十の堂室建連り歐
 羅巴勅中第一等の大寺とあり三百餘年おふ二代目非
 立王の造立せしところありて此普請金千二百万兩あり
 と云ふ
 地中海の入り口お日巴拉太と云ふ地あり巖石從身へて屏

風と建ちたるが如く海の中へ突立其高さ三三十間余小至
 り周囲に絶壁をといふ拳登るべき処あり只西の方への
 僅小細経の斜小廻りたるありく爰より下り登りて
 めすありけ処は往昔より数度の戦争をみり百六
 十六年おより英吉利の領分となり最嚴重なる臺
 場を構え彼の国の兵卒是と守りけ辺は暑に耐へ
 ぬるのころは河清水をとい元より井戸を掘りて水
 の湧出るといふと以て雨水を溜飲料或は物を洗

ふ等のみ小用あり物産の品を小にむ英吉利人
 是に依る他小益とみるところあり只地中海の要害
 とするのありとぞ
 當国の王小非爾難多と云ふ人あり其娘の馬利
 子と産む名を查理斯とらふ父は非立として日耳曼
 帝の子あると以て查理斯父方の家と相統一日耳曼帝
 の位小昇り五代目查理斯と称ふけ人を双の英雄
 小して日耳曼列国西班牙不干の国和蒙国伊太里

萬國百物語



國の大半仏蒙西國の東北
の地南北亞米理加加の國々
小至るまで所領とあり古來
稀ある威と震へり然る小宗
旨論より事起り仏蒙西
國王と戦争不及び始り
數回勝つと後々敗北
不及び逆も歐羅巴全加と平

定するに能はざるを歎く天白髪を惠まざると云く斯る
廣大至多の富貴を堊苒の如く投ち忽ち帝位を
退ぞらるアラセンシヤの地の寂莫なる山寺小閑居り
くは帝人間の栄曜歡樂の夢幻泡沫の如く常
をのの悟り早く法門を遁れり氣運の成る
とん限り一決断ふして善その始め終りと全うせ
一者と云へりは君存生の中不死後の葬式の礼と
行ひ戎程をくして卒去り一八千五百五十八年今より

萬國百物語

十六

三百二十六年おの事ありけり
 は国金銀山ありことども始めに定けず中古に至り
 大いお富と極めしハ亜米理加の墨西哥国より得る
 ところの金銀夥しきと以てあり然るお其地を失ひて
 お及んで稍自国の金銀山お心と附ととも果さず英
 吉利の人來りて礦山を發くとんて始めく自国の
 物と取るお至るあり国の人の勉めとするところハ地中海
 の諸国へ船を出して商賣と為ると以てす諸工匠學術

ハ都て外国お及ばず然ととも土人の性質傲慢おいて
 胸中の實を人お語らず志し高き故お更と勉
 むるお勇偉ありとらふ
 地羊甚と多く常お八百万頭お餘り種類と
 ニッお分ち一とメリノと名くメリノといの世畧中と推
 び歩行と云ふ伐おいて羊を牧者数群の羊と牽
 連て甲の国より乙の国へ往て商ふ故おけ名あり其
 毛筆或ひの織物とらふ用ひて最上と為すま

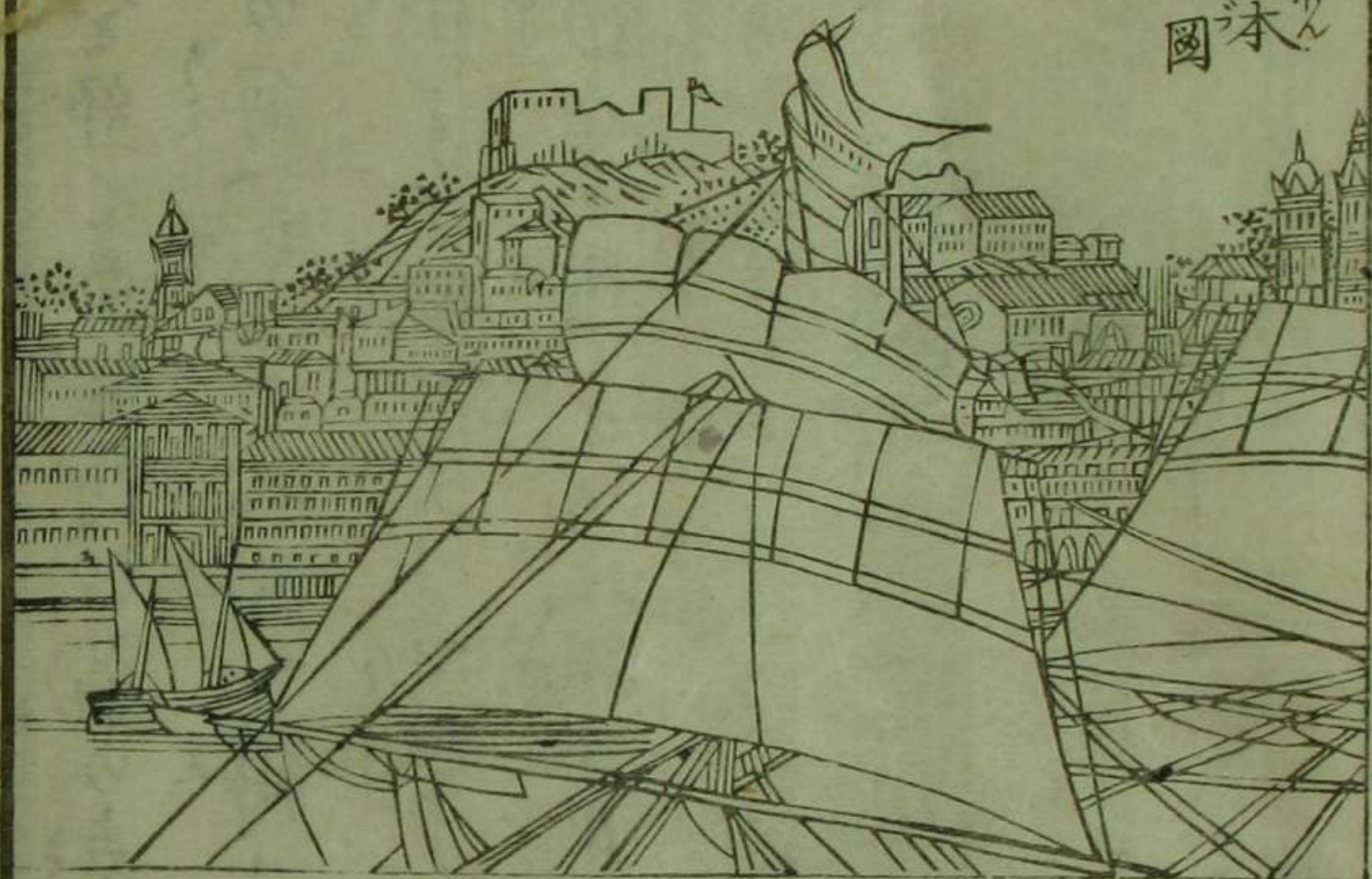
二ハツところ不在りて他へ出さず是と下等の羊
とするそぞ

○葡萄牙国のをるー

○葡萄牙の歐羅巴の西の限と不在りて北東の
西班牙小島ー南西の大西洋小臨む国小狭く時候
ハ暑さ方ありけ地海多さと以て西班牙と共小早
より能船小ありるひ既小瓦媽と云る者千四百
九十八年今より三百七十四年お小始めて大西洋

と経て亜非利加の喜望峯沖と過ぎ東印度
の海へ出るの船路を得ーの閣龍と云ふ者ガ西班牙
国より船と出して始めて亜米理加へ渡りー六年の
後あり然とい瓦媽が東支度へ渡りて土地と冥る商
法と専ら小せーより莫大なる大利と得ーる當
国の敏昌歐羅巴の中小双ふりのみー然とこも
国の人情弱あるが故小和榮英吉利仏蒙西西班牙
牙とりの人々瓦媽が云る船路小倣ひ亞細亞

里斯本の國



中^{ちゆう}ある^{ある}葡^ポ萄^ト牙^ガ國^{クニ}の^の得^{とく}意^い
 の^の交^{かう}易^い場^ば小^{せう}至^しり^り諸^{しよ}多^た小^{せう}
 勉^{けん}強^{きやう}け^けと^との^の終^{しゆう}小^{せう}是^しら^らの^のぬ^ぬ
 小^{せう}数^{すう}ヶ^ヶ所^{しよ}の^の港^{かう}と^と横^{よこ}取^とり^り
 と^とこ^こり^り日^{にっ}本^{ぽん}へ^へ西^{せい}洋^{やう}船^{せん}の^の始^しめ^め
 て^て渡^{わたり}り^り来^きり^りも^も葡^ポ萄^ト牙^ガ
 の^の國^{くに}小^{せう}て^て世^せ俗^{ぞく}小^{せう}南^{なん}蛮^{ばん}と
 稱^{しょう}ある^{ある}もの^{もの}則^{すなは}是^しる^るり^り今^{いま}今^{いま}の^の

只^{ただ}亞^あ米^{めい}埋^り加^か加^かの^の伯^{はく}西^{せい}児^に國^{こく}と^と以^{もつ}て^て國^{くに}の^の益^{えき}と^とす^する^るの^の
 あり^{あり}と^とぞ

首^{しゆ}都^とと^と里^り斯^す本^{ぽん}と^と云^いふ^ふ三^{さん}百^{ひゃく}年^{ねん}あ^あの^の歐^{おう}羅^ら巴^ぱ加^か弟^{てい}
 一^{いち}の^の鍛^{たん}糸^い昌^{ぢやう}る^るり^りよ^より^りな^なま^まと^とど^ど今^{いま}の^の少^{せう}し^しく^く衰^{せう}へ^へと^とり

比^ひ町^{ちやう}百^{ひゃく}七^{しち}年^{ねん}前^{ぜん}小^{せう}大^{だい}地^ち震^{しん}あ^あり^りて^て人^{じん}家^か七^{しち}八^{ぱつ}分^{ぶん}潰^{つぶ}れ
 人^{ひと}死^しす^する^ると^と三^{さん}万^{まん}余^よ小^{せう}至^しり^りよ^より

比^ひ府^ふの^の歐^{おう}羅^ら巴^ぱの^の西^{せい}の^の岸^{あし}の^の港^{かう}と^と以^{もつ}て^て各^{かく}國^{こく}の^の商^{しやう}船^{せん}出^で入^{いり}
 す^する^ると^と夥^{おほ}く^く殊^{とと}小^{せう}葡^ポ萄^ト酒^{しゆ}の^の毎^{まい}年^{ねん}積^つ出^です^す高^{かう}三^{さん}万^{まん}

高麗國の百七十年

一

函より四万函小至るといふ

ゲレスと云ふ山あり峰高々らずと雖も西班牙国より

の山脈続々して四方小廣がりホウガ河の北小到り

海小入つて終るは山寒さ強く樹木少し然れど溪間

の平地多し葡萄と産するを夥しく寸地も葡萄をら

ざるは之故小は山と酒山と号く葡萄と以て酒と

作るのりあり當国第一の名産と葡萄とするをぞ

は国牛少くして驢騾多し

當地の隣り国あり一カス徳の女王仏蒙西国の不干

的候といふ人と夫婦小あり亞拉伯国の回教宗門の

者里斯本の首都と奪ひて是小跋扈し居たり一と

千百十二年今より七百六十年小討て其府を取戻

一カス徳の地と合併るし始めて王国葡萄牙と称へ

り其後三百二年小とて経て顯理王の世小至り彼

の瓦媽が船路と得りより国の威勢盛大と極むる小至

りしなり

國人柔弱くわんじんまろやうにして万事ばんじ不拙ふせつ故ゆゑ不毛織物等けりものたとうハ皆英
 吉利人きりしん来りて是これを製せいす金銀山きんぎんざんありても堀ほりり生なますの
 術わざ不疎ふそ土地肥沃とちこえするも耕作こうさくの勉つとめ甚おほく粗怠あつそるり
 且また学問がくもんとすることと好あまざり故ゆゑ不文字ふもんじと知しる者もの八十
 人ひとの中うち不いち一人ひとり不過すぎずとりふ

○赫勿婁亞国へくふろあの首都こやこをシユリセと云いふ府ふの内うち不あ大おほいなる瀑
 布ふあり列應河れいんが不傾くさむき落ある水みづの落口おちぐちの幅あぢ三十丈高たかさ
 六丈四尺其罨いんさ数十里すうじゆりの外あ外そと不あ聞きゆは瀑布はふぶ東ひがし不あ向むか

ひて落ある由よし毎朝まいあさ日輪にちりんの昇のぼる時とき不す数種すうしゆの虹霓にじ瀑布はふぶ
 の水みづの落ある猛勢まうせい不あて立登たてのぼる雲くもの中うち不あ現あらはることといふけ
 处ところ不い往古いやくこの賢人けんじん不いスタロンと云いふ人の建たてが学校がくがうあり
 生徒せいと今いま不い至いたつては多おほく



萬國百物語二

○伊太利國のちるし

○伊太里の七国と集めて総称して二十五国と合せ
て日耳曼又と云ふと同一地アドリア海と地中海の
間へ長く突出する国にして歐羅巴島の南の果あり
故に氣候大概温和をまじともシロツコと号けしる亞非
利加島の大熱沙漠の地より吹来る南風ありは炎
氣不逢ふ時人へ元より鳥畜類不至るまじても大い
小悩に苦しめり三方の海ありて国の中は山脈多しなり

天然の風景あり地不及ぶところあり然まじも火の燃る山
多しを以て南部の地方の地震の變不逢と多し就中
今より八十年やどおふ那波里と云ふ山より火を噴き
走らすと猛烈にして燃石焼砂四方の近国不散乱し是
が不死亡する人民牛馬の數幾千万と云ふと知らず
其嘗て地中海と越えて遠く亞非利加島ある埃及
國まで夢えしりといふ
け國中往昔の亞非利加島へ近しを以てその地と越し

印度諸国の産物と積来り是と歐羅巴の国々へ賣
 る故大い小富とぬる事と葡萄牙国の尼媽る者
 喜望峯と続るの船路を定さしより後以国の交易
 追々衰るへ終小絶る小りけりしとバ総刃とも小大い
 小貧困と極め列国の王侯は財用乏しく小落陥
 且とも我古昔を信じて新しきと定うごりしが近頃漸
 人心昇化小向ふと云ふ
 惣国の旗印ハ黄金の翅生る獅子と赤出して用



伊人
魯人と倫

あるあり魯西亞人は是と難く
 金の翅生る獅子と何と
 所小於て獲一やと言けり
 伊太里人は是小答へて二ツ頭の
 ある鷲と出す土地より捕へ
 来しと云一とあり是魯
 西亞の旗印ハ双頭の鷲と附
 ると以てあり

殿堂国の首都と羅馬と云ふ耶蘇法皇の居所小
 して羅馬法皇と称すは則是より故小往古の歐
 羅巴中の盛大是れ不つ羅馬府と以て西都と為なるの舊跡あり今いま市
 市中ちゆう小三百二十八の寺院ありて造築極めて宏麗
 あり中ちゆう小聖人伯多祿と云ふ者の寺は高さ十六丈
 六尺濶さ二十八丈餘堂の周圍は白と黒の石と以て
 積上げ人物花鳥とりの彫刻をなせり

ちゆうちゆう勿擲祭わくしやくさい亞府と云ふありけ町六十の小崎小跨
 り四百五十の橋と架して往来と為一人の家はこゝを
 水中へを数の柱と立て其上へ營む造築の妙巧能
 他国人の及ぶところ小非ずあけ府の近傍小一基
 の層塔あり高さ三十三丈ありて尖頭小羽客の立
 像立ち其高さ一丈六尺ありと之とも洋の上より
 是と望めは恰も十三歳の小児の如し
 け地小最怪しむべき坑あり深さ二丈ちどありて幅は

廣ひろからずと雖なほも人ひと獣畜けちくとも小あやま誤まちつて是これ小い入いるとさふ
皆みな尽つく死しするとりふ

○齊あや西里りや亞島しま小坑あなあり俚俗りぞくの説せつ小むう往昔いけとさふ
ソフルソフルエラルエラルと号あづけ一風かぜの神かみ住居すまひて楽たのしき事ことあ
り怒いらまるるとある時とき心こころの疼いたふ烈風れつふうと起おこし近ちかさ四
辺よこりは是これがぬ小あ悩なやみとるると夥おほくとて人ひと大おほり小こ是これと
必かなず今いまも狽おぼ常とこ小その其坑あなより風かぜと吹出ふきだすとさふ
け齊西里あやりの地ちハ土地とち極とちめて豊饒あふ小あく五穀ごこく能生よく

するが故ゆゑ小こ世よの人ひと是これを羅馬らうまの粮庫こめくらと称なづふるよ島しまの
中うち小こ火ひと噴出ふきだす山やまあり是これをアテナあてなと云いふ百七十年あひ
前まへ大地震おほく四十四しじゅうの都城みやしろ村落むら皆みな地中ちちゆう小こ落入おちり
ままく首府しやうぶコレナコレナの町まちも地震ぢしんの為ため小こ人家べんかを潰つぶされ
人ひとの死しする七百三人しちひゃくさん小こ及およびつり故ゆゑ小こ那波里なはりの地ちとけ
処ところハ季候きこう程ほどよく産物さんぶつ有あらざる者ものもとさふとさふ噴ふ
火山かざん多おほく地震ぢしんの難あいば人住ひとすまひと嫌きらふとさふ
當所あた那波里なはりの地ち小対たいする海うみの中ちゆう小時ときとて海市あひ

高麗百物語二

七五

と見るにありとらん



當所の人蘭と養ふるの蓋西洋諸島にて蚕を作ら
 け地を以て權輿とするにぞ

○撒而地泥亞勿ハ珊瑚樹と名産とす故小国人海小

入りて皆是を求む

○哥而西加島の仁蒙西帝初代拿破崙と云ふ人の出

づるところ小して拿破崙の産と一ハアジヤシラと云ふ

港ありまゝニエルバ島の拿破崙帝の流罪せらる

地小して哥而西加より僅小九里を隔てり小島

をまじりも拿破崙の再度旗上せり地をまじり其名最

高しけ島小鏡の鑛山多きと以て近くの海と云ふ

船ハ磁石其鏡の気小感ト觸て針の向を狂らすと

有りとしふ

當国の人の商買の業小長ずると以て面小従ふの
色いろえちも服せう小ち奸謀けんぼうあり又事こと小ち迷惑まごわづく邪正
と辨べんずる小ち疎そ然さととも性質しやうせう爽快くわい善ぜんとち愛あい
一い悪あく一いとち憎にくむの情じやう甚しんと深ふか一い且かつ托たく情じやう華奢かしゃ
と喜よろこぶと以て音曲舞劇おんきょくまげと好このむと食たと忘わする
小ち至いたるべし

萬國百物語二終

一 萬國百物語

全八冊

一 和英名頭字盡
雜書

全一冊

本所亀沢町

東京書肆

宮田伊助藏板

